三宅島

○概況（平成16年7月）

引き続き山頂火口から火山ガスの放出が続いています。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、１日あたり３千～１万トンで最近１年半以上にわたって横ばい傾向です。山頂直下の火山性地震の活動は継続していますが、火山性連続微動の振幅には最近１年半以上大きな変化がありません。地殻変動は、ゆっくりした三宅島の収縮傾向が続いています。

このように、三宅島の火山活動は、全体として最近１年半以上大きな変化はなく、現在程度の火山ガスの放出は当分継続する可能性があると考えられますが、現段階で、火山活動が活発化する兆候は見られません。ただし、これまで同様、小規模な火山灰の噴出などの可能性はあります。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1　三宅島　火山情報発表状況

火 山 情 報 名	発表日時	概　　要
火山観測情報第 363 号 ↓（1日2回発表） 火山観測情報第 424 号	1日 09:30 ↓ 31日 16:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想

○火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

７月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。（表２、図１）

表2　三宅島　二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

観測実施日	二酸化硫黄放出量（日量）	火口内最高温度	協力機関
7月20日	9,000トン　11,800トン　10,300トン　12,900トン 14,400トン	176℃	東京消防庁
7月27日	10,000トン　13,100トン	―	警視庁

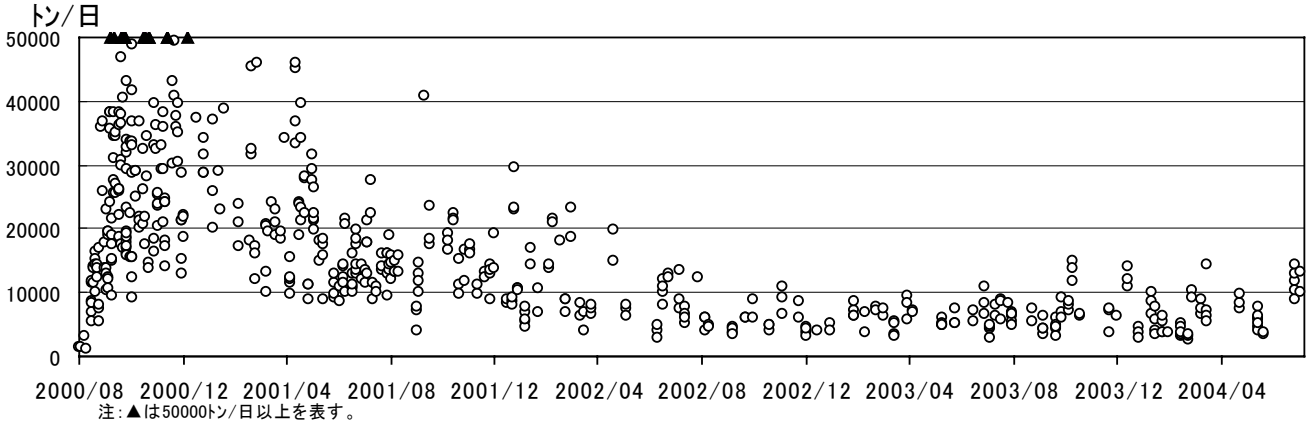

図1　三宅島　二酸化硫黄放出量（2000 年8月 26 日～2004 年7月 31 日）

○地震活動及び微動の発生状況

やや低周波地震の回数は、2002年後半から次第に増加し、2004年２，４，５月に一時的に減少しましたものの、今月もやや多い状態が続いています。一方、高周波地震と低周波地震の活動は低い状態が続いています。（表３、図２－①～③）

表3　三宅島　火山性地震日別回数表

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	2	0	1	2	1	0	2	1	0	2		11	
やや低周波地震	40	39	49	50	27	20	47	29	34	27		362	
低周波地震	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		1	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	1	4	2	2	0	4	5	0	0		18	
やや低周波地震	41	29	29	31	42	31	40	33	34	17		327	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0		7	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	1	0	0	3	2	0	1	0	1	1	4	13	42
やや低周波地震	28	48	30	27	18	16	23	36	37	27	28	318	1007
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

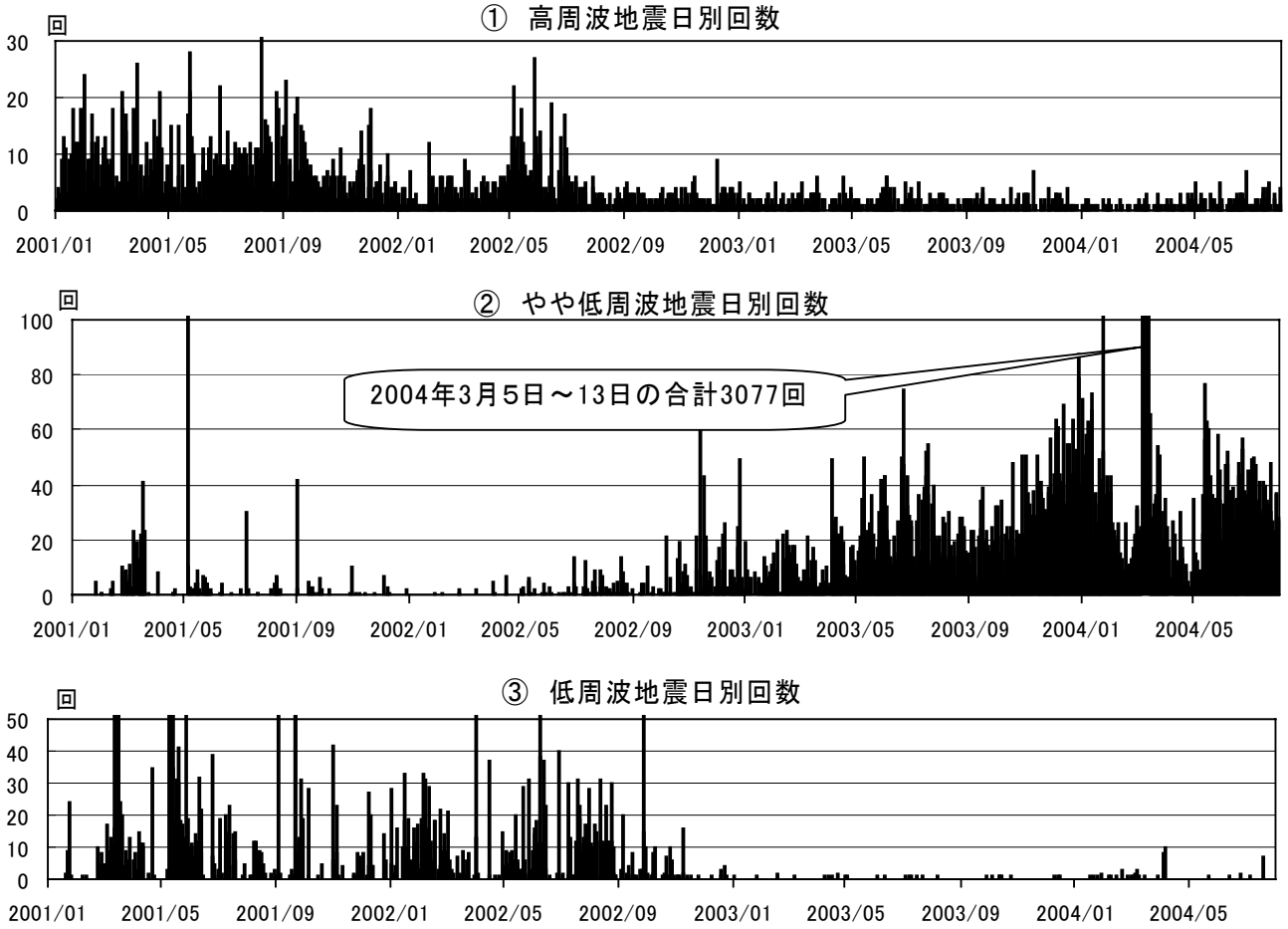

図2　三宅島　火山性地震活動経過図（2001 年1月1日～2004 年7月31日）

火山ガスの放出活動と関連があると考えられている連続微動の振幅は、2002年末から横ばい傾向が続いています。（図３）

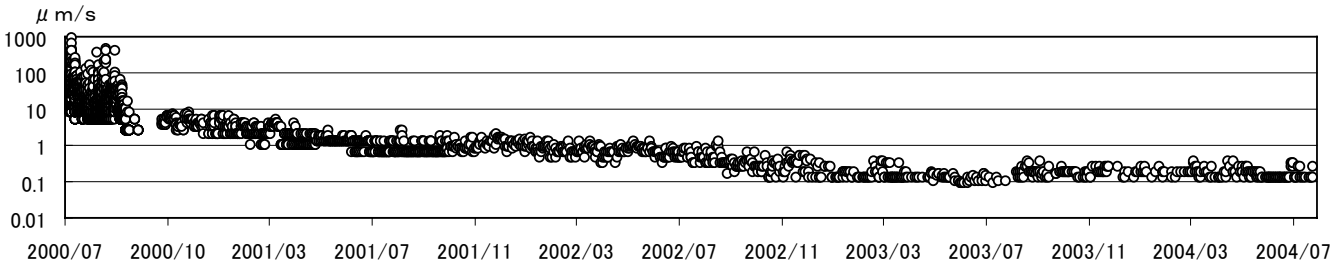

図3　三宅島　連続微動の振幅（2000 年7月7日～2004 年7月31日）

○噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上 1,000m（26 日）でした（図４）。

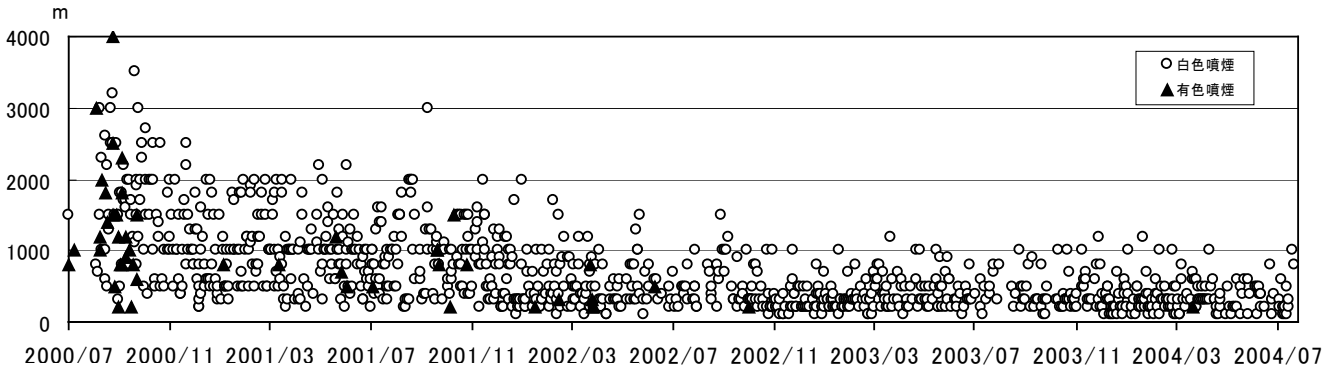

図4　三宅島　日最高噴煙高度（2000 年7月8日～2004 年7月31日）

○地殻変動の状況

GPS観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、ゆっくりした収縮が続いています。（図５－①～②）

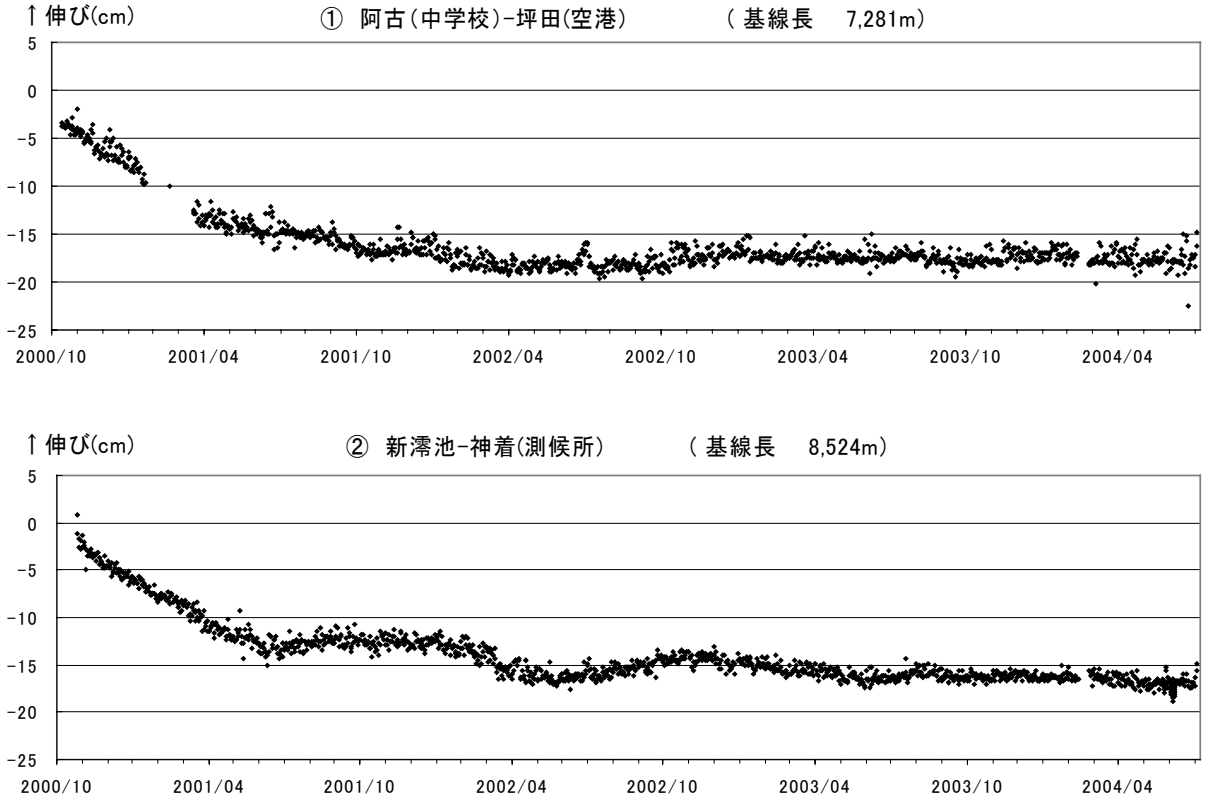

図5 三宅島 GPS観測結果(基線長変化) （2000 年 10 月1日～2004 年7月31日）

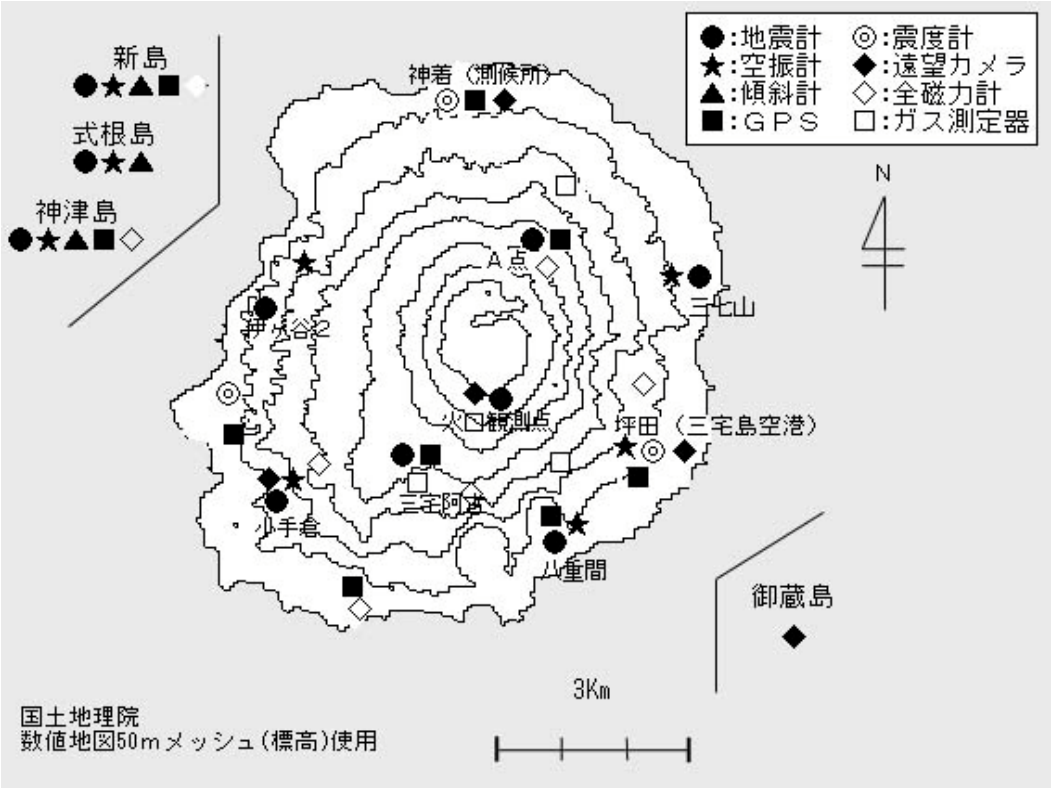

図6 三宅島 気象庁の観測点配置図